

議第 1 号

「岐阜県立高等学校の活性化に関する 2018 年度の検討まとめ」について

「岐阜県立高等学校の活性化に関する 2018 年度の検討まとめ」を別紙のとおりとする。

平成 31 年 4 月 22 日提出

岐阜県教育委員会

教 育 長 安 福 正 寿

(提案理由)

県立高等学校の活性化に関する昨年度の取組結果と、今年度以降の取組内容及び今後の方向性を「岐阜県立高等学校の活性化に関する 2018 年度の検討まとめ」として整理し、今年度以降の検討に資するもの。

岐阜県立高等学校の活性化に関する2018年度の検討まとめ（概要）

◆ 2018年度の実績結果

- 2019年度入学選抜に係る学科改編等について（2018年4月発表）
 - ・ 学科改編等 <2頁>
13校において学科改編等を実施
 - ・ 1学級40人未満の入学定員の設定 <3頁>
入学状況や地区内の生徒減少を踏まえ、新たに5校で設定
 - ・ 県外からの生徒募集 <3頁>
加納（音楽）、東濃（ロボコン）、恵那農業（園芸）、坂下（福祉）の4校で入学
- 2018年度事業等報告
 - ・ 地域連携による活力ある高校づくり推進事業 <4頁>
協議会を核とした地元市町村や企業等と連携した取組を通して、地域において活躍の場を得た生徒が、より主体的に自分の将来を考えた進路実現する姿などに成果
 - ・ 進学指導推進事業 <13頁>
進学指導重点校を4校から6校に拡大して実施
 - ・ スーパーグローバルハイスクール（県指定SGH）事業 <17頁>
選抜性の高い大学へ進学志望者が多い5校で、大学や企業等と連携した質の高いカリキュラムの開発を通して、グローバルな視点で社会的な課題解決できる人材を育成
 - ・ 理数教育フラッグシップハイスクール（FSH）事業 <17頁>
理数科設置校等6校で、研究機関等との共同研究や、課題解決型の学習を実施
 - ・ スーパーハイスクールセッション（SSS） <18頁>
スーパーハイスクール12校の生徒が、学校の枠を越えて、協働して地域課題の解決に向けて協議や提言を実施
 - ・ 高等学校における演劇等ワークショップ事業 <18頁>
県内6校において、演劇等の自己表現を通して、コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図る取組を実施
 - ・ 専門高校地区検討委員会 <19頁>
地区ごとに専門学科間の連携、グローバル人材の育成などについて協議

◆ 2019年度以降の取組内容と今後の方向性

- ふるさと教育の推進
ふるさと教育の推進という視点で、ふるさとの魅力を知り、ふるさとを教材とした探究的な学習を全ての高校で展開
- ・ 地域産業の担い手育成総合戦略事業（新規） <21頁>
専門高校において、外部施設設備の利活用等を推進し、地域産業を担う人材を育成
- ・ 地域連携による活力ある高校づくり推進事業（継続） <21頁>
地域課題を踏まえた活力ある高校づくりを推進するとともに、高校19校と特別支援学校2校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を拡充
- ・ 地域共創フラッグシップハイスクール事業（新規） <21頁>
グローバルな視点での課題研究など、企業等も連携しながら質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を推進

・地域との協働による高等学校教育改革推進事業（新規 国事業）＜22 頁＞

地域の産業界等と連携・協働しながら地域課題の解決等に向けた探究的な学びを体系的・系統的に実施するためのカリキュラム開発

・スーパーハイスクールセッション（SSS）（拡充）＜22 頁＞

対象校を 16 校に拡大し、学校の枠を越えたグループで、新たな課題解決に向けて協議や提言を実施

・地域課題探究型学習推進事業（新規）＜22 頁＞

自治体、高等教育機関や企業等との協働により、地域の魅力を知り、より地域に密着した課題を発見・解決する探究型学習を推進

・清流の国ぎふ、ふるさと魅力体験事業（拡充）＜23 頁＞

県の自然・歴史・産業等に関する施設や名跡等を訪れ、その魅力を体験する学びを高等学校に拡充

・ICT環境の整備 ＜23 頁＞

主体的・対話的な学びを実現するための基盤となる ICT 機器を普通教室等に整備

○ 進学指導推進事業（継続）＜23 頁＞

新大学入試制度を見据え、生徒の学力向上や教師の進学指導力向上を推進

○ 高等学校における演劇等ワークショップ事業（拡充）＜24 頁＞

演劇等の自己表現を通して、コミュニケーション能力等の向上を図る取組を 12 校に拡大して実施

○ 今後の方向性について

・ICT環境の活用について＜24 頁＞

ICTを活用した授業改善や、探究的な学習への効果的な利用を研究

・専門高校におけるこれからの学科構成について ＜24 頁＞

県地方産業教育審議会答申や新学習指導要領の実施を見据え、学科改編の方向性について整理し、段階的に実施

・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の拡大について ＜25 頁＞

地域と連携した学習の推進状況や学校の意向等を踏まえ、コミュニティ・スクールの拡充を検討

・今後の生徒減少期を見据えた生徒募集について ＜25 頁＞

1 学級 40 人未満の入学定員の設定

小規模（4 学級以下）の学校や 1 学科 1 学級となっている専門学科の定員を減ずる場合の手段の一つとして実施

専門高校における学科群募集

農業科、工業科において学科群ごとの生徒募集を拡大し、少子化の進展により学科規模が縮小する場合には、柔軟な定員設定やより広い領域を総括した学科群構成を検討

また、県外募集については、生徒数の動向等から活性化が求められる高校及び学科のうち、特色のある学科や地域連携での学び、または指導者を有する特色ある部活動などを募集分野として実施。今後は従来の募集分野に地域と一体となった様々な取組を加えるなど、県外募集のねらいが明確となるよう高校ごとに協議し、実施校及び募集分野を検討

・併設型中高一貫教育校について <26 頁>

昨年度実施したアンケート調査結果も踏まえ、今後も他県の設置状況や、今後の社会状況の変化も踏まえ、継続して検討

◆ 2020年度入学者選抜制度の変更及び学科改編等について

○ 県立高等学校入学者選抜の変更について <27 頁>

・インフルエンザ罹患者等への対応

第一次選抜、連携型選抜から同合格発表までの期間に、追検査を実施。また、第二次選抜の学力検査については、5教科の中から各高校で実施する教科を指定していたものを、国語、数学、英語の3教科の中から指定

・出願時における第2志望、第3志望の取扱い

同一校の他の学科に限り、他の学科を第2志望、第3志望とすることが可能

・連携型中高一貫教育校における連携型中学校の拡大

揖斐川町に設置する連携型中高一貫教育校における連携型中学校を2校から4校に拡大（揖斐川中、北和中に、谷汲中、坂内中を加え、揖斐川町立全4中学校を連携型中学校とする）

○ 学科改編等について <29 頁>

対象校：単位制の導入：八百津、瑞浪、恵那

学科群募集：大垣養老（農業科）、大垣工業、飛騨高山（農業科）